



深貝善太郎先生 近影

献 呈 の 辞

深貝善太郎先生は、1953年に本学助手（文理学部）として着任されて以来、翌54年に講師、58年に助教授、68年に教授、78年文理学部の分離改組にともない法文学部教授となられ今日に至った。その間35年の長きにわたり、金融論ならびに経済原論担当教官として研究と教育に精励され、学会ならびに本学教育に貢献されてきた。また一方では、法学科代表・同教室主任をはじめ、学部予算委員会、同宿舍委員会、同建物委員会などの委員を勤められ、学部運営にも寄与されてきた。このたび定年により本学を退官されるにあたり、『経済科学論集』はここに記念号を編集して先生に献呈し、いささか感謝の意を表するとともに、先生のご健勝と一層のご活躍を祈る次第である。

1988年2月

島根大学法文学部長

松 尾 寿



竹内 正先生 近影

献 呈 の 辞

竹内正先生は、1950年本学に着任以来、刑法ならびに刑事訴訟法担当教官として研究と教育に精励されてきた。その間、法学科代表・同教室主任、文理学部厚生補導長、島根大学評議員、法文学部長(文理学部長兼任)などを歴任され、ことにいわゆる「大学紛争」という時期には評議員として難局の打開に尽力され、また法文学部の草創期には学部長として学部発展に尽くされたことなど、学内行政へも多大の貢献をされた。また一方学外にあっては、法務省人権擁護委員、島根県建築審査会委員、島根県弁護士会懲戒委員会委員などを勤めるなど、地域にも貢献されてきた。このたび定年により本学を退官されるにあたり、『経済科学論集』はここに記念号を編集して先生に献呈し、いささか感謝の意を表するとともに、先生のご健勝と一層のご活躍を祈る次第である。

1988年2月

島根大学法文学部長

松 尾 寿